

お仏壇には“生きる秘訣”がいっぱい

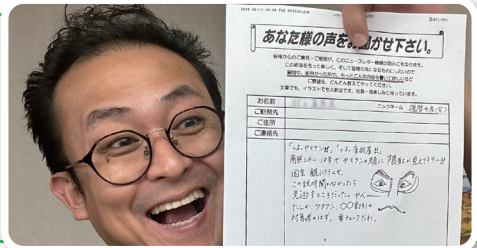
仏教大好き職人がお届けする

まごころ3分お仏壇レター

19号

2025年11月発行

2025年もあと2ヶ月！皆さんにとって、どんな1年でしたか？僕にとっては、これまで以上に「いのち」と向き合う年でした。さて、ニュースレターも丸3年、「なるほど!」「むむむ!」と言ってもらえるナムい記事になっているのかな!?あなたの感想をFAXかLINEでどしどしお寄せください。お待ちしております!



M様からステキなイラスト入りのご感想をいただきました

だいすき仏教! 私が仏教にハマった理由!

仏教伝道協会60周年記念シンポジウム「だいすき仏教」が築地本願寺(東京)で開催され、僕はオンラインで参加しました。

ふるたちい ちろう
メインは古舘伊知郎さんの講演会。
仏教好きによる仏教好きの為の3時間でした!



やまがた
代表の山縣
(あだ名はヤマケン)

特別講演「修行をしない私たちの仏教」

古舘さんは、プロレスやF1の実況で人気が発、紅白の司会、報道ステーションのメインキャスターを12年務め、現在も多方面で活躍中。そんな古舘さん、実は大の仏教マニア。ことあるごとに仏教の話をしているため、娘さんから「仏教ハラメント」と嫌がられているそうです(笑)仏教について、どんなお話をされるのか?あの軽快な口調から想像もできない、いのちと向きあう心にグッとくる時間でした。



本堂で熱弁をふるう
古舘伊知郎さん(70才)

仏教を学び始めたきっかけ

古舘さんが仏教にのめり込んだ理由は2つ。1つは、「欲望まみれな自分」有名になりたい、売りたい、儲けたいという溢れ出てくる煩悩をどうにかして抑えられないかと思ったこと。そして、もう1つはお姉さんが若くしてガンで他界され、それを目の当たりにして「死にたくない」と感じたことがきっかけ。当時、古舘さんは36才で、お姉さんは42才。2人のお子様もまだ小さい時のことだったそうです。私たちは、身近な人の命からやっと「死」と向き合いはじめると言われてました。遠くパレスチナのがザ地区で今日も誰かが亡くなった...と聞いても、本音を言えば悲しみよりも戦争反対を意見しています。「人は遠くで起きた忌まわしいことに美しく怒れる」という言葉があるそうです。近しい人、愛しい人が亡くなることが、自分たちの命を自覚させ、それが仏教と向き合うきっかけとなるのかもしれないね。



↑仏教伝道協会のHP

←7年前に修復をした沼田氏の銅像

仏教伝道協会とは?

仏教を世界の人々にわかりやすく伝える団体。1965年に測定機器メーカーのミットヨの創業者でもある沼田恵範氏によって創設された公益財団法人。ホテルに置かれている「仏教聖典」は、この協会が刊行しています。また、宗派を超えた様々な講座があり、だれでも仏教の勉強が出来ます。沼田氏は東広島市志和町のお寺の出身。音羽屋では、ミットヨ(志和、郷原、呉)の工場にある沼田氏の銅像修復からご縁が繋がりました。

◆お仏壇の修理・掃除・洗浄・塗替え・買換え・移動・保管・処分 ◆お仏具・お数珠・寺院関連・おみこし・掛軸などの修復



お仏壇の事で困りの方が
いらっしゃいましたら
ぜひご紹介ください!

毎日更新中ブログ

◆広島県全域対応◆出張お見積り無料



音羽屋

広島市中区舟入南3丁目13-1 FAX 082-942-0526

仏壇 音羽屋

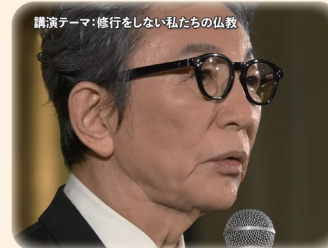
検索

〈お問合せ〉受付/午前8:00~午後7:00 TEL 082-231-3721

今回の「南無レター」はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想をどしどしお寄せください。ご連絡用LINEからメッセージを頂けると嬉しいです! こちらからどうぞ➡



闘病中の娘に伝えた、父の一言。



講演テーマ:修行をしない私たちの仏教

古舘さんのお姉さん(エミコさん)は、3回の手術の後、チューブでつながれ食事でもできない状態でした。古舘さんは週に1回お見舞いに行き、励まし続け、抜けていく髪の毛を見て、高級なウィッグをプレゼントしたりされていたそうです。お母さんは、「自分が代わってやりたい!」と心身ともに、ボロボロになりながら看病しておられたそうです。

そんなある夜、お父さんがベロベロに酔っぱらって病院から帰ってきて、ホッとしたような顔でこんなことを言います。「今日はよかった。エミコにやっと伝えられたよ。」一体、お父さんは闘病中のエミコさんに何を言ったのか? 実はお父さん、3カ月の間毎日お昼休みに病院へ行って、エミコさんの腰を1時間マッサージしていたのだそうです。心はほぐせないけれど、せめて腰だけでも。寡黙なお父さんは、静かに腰を揉んでいました。そして、意を決したこの日、

お父さんは、エミコさんにある一言を伝えます。「エミコ、お前は死ぬよ...。」

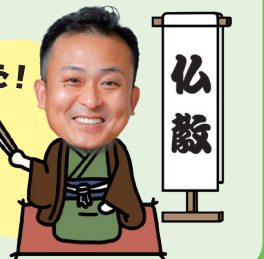
エミコさん本人もきっと悟っていたはず、しかし、認めたくない自分もいたはず。周りも決してそのことにはふれません。お父さんは続けます。「絶対に心配するな。まず、時が風化する。そして、一番心配なのは子供たちのことだろう。大丈夫。ご主人がいる、俺がいる、伊知郎がいる。子供は自然と育つし、周りがある。何も心配しなくてもいい。安心してあちらへ行っていい。苦しいだろう。楽になれるよ。」それを聞いたエミコさんは、何も言わずにその言葉を受け止めていたそうです。帰ってきたお父さんは、古舘さんに「少しは分かってくれたと思う。独りよがりだけど...」と言ったそうです。決して口にしてはいけない一言をわが娘に伝えた父。古舘さんもお母さんもそのことに激怒します。しかし、振り返ってみて、その時の父の行動は間違っていなかったと感じたそうです。一日でも長く生きて欲しい。これは、周りのエゴだったのではないか。本当にエミコさんの気持ちに寄り添っていたのは、父親だったのではないか...

その後、エミコさんは亡くなり、葬儀が終わり火葬場に向かう時、お父さんとお母さんは立ち会う事なく帰ってしまわれたそうです。自分たちにとって初めてのこどもが、親より先にいなくなる。あれだけ強かった父親もいたたまれず、息子である古舘さんに任せてその場から去ってしまう。「逆縁」の悲しみ、苦しみとは、いかばかりのものか...。古舘さんは、今でもその後姿が目には焼き付いているそうです。そこから、悲しみとは、命とは、なんなのかを深く考え始め、今も仏教をしっかりと学び続けておられるのだそうです。

なんのために「仏教」があるのか?

賛否両論ある内容ですが、僕は人それぞれの「価値」について考えさせられました。というのも、8年前に義父がガンで亡くなり、一昨年前には義母が脳出血で身体が不自由となり、昨年11月には義兄が50歳で他界しました。身近な人の老病死、そして、お客様からも「いのちのつながり」を教わる日々。仏教は時に、身もふたもない、あられもない真実を説いています。「死」を避けるのではなく、受けとめること。それが、いまを大切に生きることにつながる。講演を通して、改めて「仏教は、新たな価値を提示してくれる学び」だと感じました。最後、古舘さんは「今は、安心して不安になれる場所がない。それが仏教であり、お寺であってほしい。」と仰ってました。これからも仏教の学びを発信することで、少しでも安心をお届けできればと思います。来年もどうぞよろしくお願いいたします!

ととのいました!
お寺とかけて、
仏教のお話ととく、
そのころは?
どちらも寺院(ジーン)と
なるでしょう!



仏教